

令和元年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法
		評価指標と活動計画	評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価
1 学校運営の充実	(全体レベル) (1) 教職員の資質向上に努め、学校全体の教育力を向上させる。 (2) 風通しの良い職場環境を推進するとともに、コンプライアンス意識の向上を図る。 (3) 広報活動を充実させ、開かれた学校づくりを推進する。 (下位組織レベル) ①各種教職員研修の充実 ①協働精神に満ちた教職員の組織づくり ②教職員間の情報活用能力と情報モラルの育成 ②教職員のコンプライアンス意識の徹底 ③学科再編、学校開放・公開、地域貢献ボランティア活動やホームページの充実、学校行事の公開等、積極的な情報発信の推進	①-1 各種教職員研修の実施 【各学期3回以上】 ①-2 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教員組織としての意思統一を図る。 【セキュリティ研修：年3回以上】	①-1 コンプライアンス研修を含む教職員研修等を実施している。 【1学期:6回, 2学期:4回, 3学期:4回】 ①-2 職員会議および職員朝礼時に必要に応じて適宜研修を行い、情報セキュリティの遵守に努めている。	A	A
		②-1 風通しの良い職場環境度合いを図るアンケートの実施 【充実度：90%以上】 ②-2 コンプライアンス意識の向上割合 【向上率：85%以上】 ③-1 学校ホームページの更新並びにアクセス数の増加 【アクセス数：年間1万件以上】 ③-2 体験入学における中学生の満足度の向上（保護者を含む） 【中学生満足度：90%以上】	②-1 共通理解・協力体制の充実を含む教職員間の団結を図っている。 【充実度：94%】 ②-2 常に教育公務員としての自覚を継続する。 【向上率：88%】 ③-1 4月当初のアクセス数は188,114(4/11)で、2月現在は248,698(2/17)である。約6万件のアクセスがあり、目標を大きく上回っている。 ③-2 中学生体験入学参加者8/9 19名(保護者13名, 引率教員 9名) 【中学生満足度93.3%(保護者含む)】	A	(所見)
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 教職員の資質向上のための研修会を実施する。 ①-2 コンピュータ・メカの共有フォルダを活用し、校務の効率化を図る。 ①-3 「報告・連絡・相談」の徹底を図り、教職員間の共通理解を深める。	①-1 継続的な研修の実施とともに、今年度文科省より指定を受けている地域との協働事業推進のための研修を2回開催した。 ①-2 情報資産を共有をすることで、公務を円滑に行うことができている。 ①-3 「チーム学校」として組織力を活かした指導体制づくりが推進できた。今年度、ゼミ・ティートライブラリに参加している。		
		②-1 時期をとらえ、継続的な研修を実施することでコンプライアンス意識の徹底を図る。 ②-2 情報セキュリティポリシーを遵守し、情報漏洩防止の徹底を図る。	②-1 風通しの良い職場環境づくりを推進する中で、今年度、コンプライアンス推進室長に来校いただき講習会を開催した。 ②-2 定期的に研修を行うことで、注意喚起し、セキュリティポリシーの遵守に努めている。		
		③-1 保護者や地域に、次年度からの学科再編の内容や本校の特色、学習活動などを積極的にかつリアルタイムに情報発信できるようホームページの更新・充実を図る。 ③-2 体験入学において、本校の特色ある学習内容に関する講座を開設実施するとともに、次年度からの教育課程や学習内容について説明する。	③-1 適当な時期にホームページを更新し、情報提供を行っている。昨年度4月に、約13万件だったアクセス数が、現在約25万件となっている。この1年半で約12万件の閲覧があった。 ③-2 特色ある体験授業の中で学習内容等をよく理解することができた。 【生徒理解度：87.4%】 体験入学以外に、オープンスクール及び中学校進学説明会においても教育課程や学習内容についての説明を行った。		

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和元年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法		
		評価指標と活動計画	評価				
2 確かな学力の育成	(全体レベル) (1) 基礎基本の定着を図り、自己教育力を高める。 (2) 図書に触れる読書活動を充実する。 (3) 個性の伸長を図り、専門的な知識や技術を習得させる中でスペシャリストの育成を図る。 (下位組織レベル) ①基本的な学習態度の向上に向けた取り組み ②図書室の有効的な活用 ③各種資格取得の奨励と補習体制の構築による合格率の向上	評価指標 ① 高校生のための学びの基礎診断に認定された測定ツールの利活用 【(1年生) 1回目より2回目の偏差値が上昇した生徒の割合70%】 ②-1 朝の読書週間の実施 【年間14日、延時間140分】 ②-2 図書室の有効利用 【図書室だよりの発行3回】 【読み聞かせ会の実施3回】 ③ 資格取得 【(1・2年生) 年間取得資格数2つ以上の生徒の割合70%】	評価指標の達成度 ① 高校生のための学びの基礎診断に認定された測定ツールを1年生より年間2回実施。 【(1年生) 1回目より2回目の偏差値が上昇した生徒の割合69.0%】 ②-1 6月に一週間、朝のホームルームの時間を利用し、10分程度実施。 ②-2 図書室だよりは、新刊図書の案内を兼ねて発行予定。 読み聞かせ会は、6月に1回実施。次回は11月末の予定。 ③ 資格取得については、1・2年生は年間取得数が2つ以上を目指して努力した。 【(1・2年生) 年間取得資格数2つ以上の生徒の割合76.4%】	① B ② B ③ A	総合評価 B (所 見) ・高校生のための学びの基礎診断テストに向けて、ワーク等の家庭での事前学習をしたことにより、得点は減少した生徒が多かったが、1回目より2回目の偏差値が上昇した生徒は7割近くいた。 ・読書週間で、それぞれが集中して本を読むことができていた。読み聞かせについては図書委員以外からも積極的に読み聞かせをしてくれる生徒が出てきた。図書室だよりは3月に最終刊を発刊予定。 ・資格試験の合格率(造園技能検定3級、園芸装飾技能検定3級、農業技術検定3級、ビジネス文書実務検定)は、補習を計画的に実施することにより昨年度より上昇した。	○確かな学力は、基礎学力だけでなく、問題解決力や生きる力、表現力など幅広く捉え、本校生徒の育成課題にはどうか。例えば、「主体的に行動できる」、「コミュニケーション能力」、「人間関係がうまく作れる」などの抽象的な項目を工夫してもらって、子ども達を多面的に捉えて評価して欲しい。 ○昔の授業は、黒板を板書するという授業が多かったように思うが、神山創造学のような教員と生徒のやりとりが多い授業は他にあるのだろうか。普通教科でもみんなが会話できる授業内容でコミュニケーション能力を身に付けるようにすればよい。 ○評価指標③の資格取得は、No. 5の「社会的自立と進路実現の支援のところで評価した方がよい。	○基礎学力の定着に向けて朝のHRを活用した学習活動や放課後の補習、長期休業後の課題テストの実施など他校で取り入れている内容を参考にしていきたい。 ○本や新聞を読む機会を増やすために、読書スペースを設けるなど、図書室が開いていない時でも気軽に読書ができるような場所を提供していく。 ○読書週間後の本の返却をスムーズにできるように意識付けをしていきたい。 ○資格の取得に関しては、数年前より重点的に取り組んでいる。今年度は、指導方法の改善や時間外授業等の活用により合格率が上昇したので、次年度もさらなる上昇を目指す。 ○本校が10年前から取り組んできた造園技能検定2級の資格取得について、挑戦したいという生徒が出てきているので来年度は是非合格できるよう取り組んでいきたい。
		活動計画 ①-1 1・2年生は年間2回、3年生は年間1回基礎力を確認するテストを実施する。 ①-2 テストに向けてワークを配布し、事前学習を必ず行うことにより、基礎学力の定着を図る。 ②-1 朝のホームルームの時間を活用し、1回10分程度の読書時間を設ける。 ②-2 この時間に読む本は、必ず学校の図書室で借りた本とする。 ②-3 購入図書の案内を定期的に行うなど、図書館だよりの発行により読書への意識づけに努める。 ②-4 図書委員を中心として、学期に1回程度の読み聞かせを行うなかで読書活動を推進する。 ③-1 検定試験では、合格率の向上を目指し、教科指導や時間外授業を活用する。 ③-2 担当教員を配置し、合格率の向上に努める。 ③-3 資格が将来の仕事や日常生活などにおいて役立つことを認識させることにより、資格取得に取組む動機付けを行う。	活動計画の実施状況 ①-1 1・2年生は年間2回、3年生は年間1回基礎力を確認するテストを実施した。 ①-2 テストに向けてワークを全生徒に配布し、家庭で事前学習を必ず行うよう指導し、基礎学力の定着を図ることに努めた。 ②-1 6/17～6/21の間、朝のホームルームの時間を利用し、10分程度実施。次回は11月末、2月実施予定。 ②-2 事前に図書室の本を各自1冊以上借りて、期間中は集中して読むことができていた。 ②-3 新刊図書を11月末に購入予定。新刊案内を兼ねて、図書館だよりを発行。 ②-4 読み手も丁寧に読み聞かせ、聞き手もしっかりと聞くことができていた。 ③-1 検定試験では、教科指導や時間外授業を活用し、合格率の向上を目指した。 ③-2 担当教員を配置し、合格率の向上に努めた。 ③-3 資格が将来の仕事や日常生活などにおいて役立つことを認識させる話をし、資格取得に取組む動機付けを行った。				

令和元年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法
		評価指標と活動計画	評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価
3 安心・安全の観点に立った学校教育の推進	(全体レベル) (1) 基本的生活習慣の確立を図り、規範意識や道徳心を高める生徒指導を推進する。 (2) 思いやりの心と人権を尊重する態度を育て、いじめを防止する。 (3) 特別支援教育を推進し、個々に応じた支援を行う。 (下位組織レベル) ①基本的生活習慣の確立 ②よりよく生きるための資質を育成(道徳教育) ③職員間での特別支援体制の確立及び関係機関との連携推進	①-1 頭髪・服装検査の実施並びに違反者への改善指導の実施 【違反者率：10%未満】	①-1 毎月1回以上の実施済み、違反者への改善指導は継続中 【違反者率：10%】	B	B
		①-2 全校集会の実施 【各学期 3回以上】	①-2 全校集会は計画通りに実施され、状況に応じて対応できている。		
		①-3 スマホ、携帯電話の使用並びに公共機関利用におけるマナーアップ指導の実施 【年間 3回以上】	①-3 携帯電話・スマホのマナーアップ向上のため、防犯教室の開催と全校集会で対応している。 【1学期：1回実施】		
		①-4 神農クラブによる挨拶運動の実施 【毎月1回】	①-4 神農クラブによる挨拶運動 【1学期：3回実施】		
		②-1 人権ホームルーム活動の実施 【年間 5回以上】	②-1 3年生計画通り5回実施した。1・2年生は3月に5回目を実施予定。		
		②-2 教職員人権研修の実施 【年間 3回以上】	②-2 2回実施し、3月に外部から講師を招き研修会を予定している。		
		③-1 担任、特別支援教育コーディネータを中心に教職員が協力して、教育相談体制を整える。	③-1 生徒の悩みなどを保健室で養護助教諭に相談する生徒も多く、その際には速やかに教職員で情報を共有できている。		
		③-2 教職員の特別支援教育に関する知識・意識の向上を図る。 【理解度・満足度 90%以上】	③-2 教職員対象の特別支援教育研修を実施した。		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 毎月20日の登校指導を実施し、生徒の指導に役立てる。	①-1 毎月20日の計画で校門指導を実施し、生徒指導に役立てることができた。		
①-2 6月、11月及び状況に応じて全校集会を実施し、全職員で支援、指導を行う。	①-2 全職員が一丸となった支援・指導に取り組むことができ、さらに状況に応じた全校集会も実施できている。				
②-1 生徒の実態に即した内容を扱うと共に、事例検討等の体験活動を取り入れる。	②-1 コミュニケーションが苦手な生徒や感情のコントロールが苦手な生徒の指導支援に役立てるため専門家を招いて研修会を計画している。				
②-2 研修会等で得た知識を校内で他の教職員に還元する。	②-2 各種の研修会に希望職員を募り、積極的に参加しており、徳島地区生指協及び名西生指協での情報も全職員で共通理解に努めている。				
③-1 教育相談に使える場所を作り、生徒が気軽に相談できるような環境を整える。	③-1 「教育相談室」及び「キャリアアップ教室」を有効に活用して相談活動が実施できている。				
③-2 研修会で学んだことをもとに、教職員間で共通理解を図って支援が必要な生徒に対応する。	③-2 支援が必要な生徒に対しては、教職員全体で協力して対応している。				

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和元年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法	
		評価指標と活動計画	評価			
4 防災・環境教育の推進	(全体レベル) (1) 安全な生活空間づくり・防災意識の高揚を図る。 (2) 学校版環境ISO認定校としての実践を推進する。 (3) 地域の環境美化や保全に貢献する活動を推進する。 (下位組織レベル) ①安全教育の充実 ①効果的な防災教育の計画・実践 ①有効適切な防災避難訓練の企画と展開 ②節電・節水・ゴミの分別の徹底 ②校内の美化 ②環境調査の実施 ③自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動及び環境保護活の推進	評価指標 ①-1 避難消火訓練の実施 【地元消防署との合同訓練 1回以上】 ①-2 災害に対する避難訓練の実施 【年間 3回以上】 ①-3 防災クラブの活動 【地域連携による活動1回以上】 ①-4 高校生の防災士の育成 【防災士合格者 1名以上】 ----- ②-1 教職員の地域の清掃活動への積極的な参加を促す。 【年間 3回以上】 ②-2 教室美化コンテストを実施 【各学期 3回以上】 ②-3 鮎喰川の水生生物調査を実施 【年間 1回以上】 ----- ③-1 ゴミゼロキャンペーンやアドプト事業の実施 【各クラス年間 2回以上】 ③-2 バス停清掃の実施 【各クラス年間 2回以上】 ③-3 希少植物の保護活動 【年間 2回以上】	評価指標の達成度 ①-1 避難消火訓練の実施 【12月に実施】 ①-2 災害に対する避難訓練の実施 【6月・9月・11月実施】 ①-3 防災クラブの活動 【4K映画祭で炊き出し訓練】 ①-4 高校生の防災士の育成 【防災士合格者 0名】 ----- ②-1 教職員の地域の清掃活動への積極的な参加を促す。 【計画通り実施】 ②-2 教室美化コンテストを実施 【各学期 3回実施】 ②-3 鮎喰川の水生生物調査を実施 【実施なし】 ----- ③-1 ゴミゼロキャンペーンやアドプト事業の実施 【計画通り実施】 ③-2 バス停清掃の実施 【計画通り実施】 ③-3 希少植物の保護活動 【開花時期に観察】	評定 B (所見) ・防災クラブを「神農クラブ」のメンバーで立ち上げ、活動をしている。今年度も「ふるさと大好き！地域防災推進事業」を継続しており、防災研修にも積極的に参加し、防災意識を高めている。また、高校生防災士の資格試験にも挑戦しているが、今年度は合格者がいなかった。 ・高校生防災士の資格取得に挑戦することにより、地域の防災に対する意識が高まってきている。また、地域に高校生が出て、炊き出し訓練を行っており、地域と連携した活動ができています。	○評価指標の達成度において、目標とする回数を実施できた、できなかったという点で評価するのではなく、実施して生徒がどう変わったかということの評価すべきである。 ○希少植物のジンリョウユリの情報が少ないようである。せっかく神山の地名のついた植物であるので、神山校での保護・増殖活動を継続して欲しい。 ○防災の備蓄について、県の避難指定場所になっているとのことなので、神山町で備蓄する分を学校にもう少し増やしてはどうか。	○積極的な防災活動を通じて、地域で活動できる生徒の育成に力を入れるとともに、防災士を中心とした防災クラブの活動を活性化させていく。 ○高校生防災士資格試験合格に向けて、勉強会の実施を考えている。 ○地域と連携した防災活動を実施していきたい。 ○教室美化コンテストを継続し、生徒の環境美化に対する意識を高めていきたい。 ○県立博物館と連携し、鮎喰川の水生生物調査を計画しているの、より深化した環境への知識習得を目指している。持続可能な環境保全への取組を今後も継続していく。
		活動計画 ①-1 台風時期・積雪時期に事前備蓄点検を実施 ①-2 学校防災計画に準じた避難訓練を実施、計画の不備が発見次第、早急に改善する。 ①-3 地域・防災クラブが連携し炊きだし体験を実施する。 ①-4 AEDを使った心肺蘇生の研修を生徒・教職員に実施する。 ----- ②-1 各教室に節電に係わる啓発チラシを掲示、節電に心がける。 ②-2 校内教室美化コンテストを実施し、教室環境を整える。 ----- ③ 希少植物の保護活動の充実を図る。	活動計画の実施状況 ①-1 台風時期・積雪時期に事前備蓄点検を実施し、報告した。 ①-2 学校防災計画に準じた避難訓練を計画的に実施している。学校防災計画の見直しを実施した。 ①-3 地域・防災クラブが連携し炊きだし体験を実施した。 ①-4 AEDを使った心肺蘇生の研修を生徒・教職員に実施した。 ----- ②-1 各教室に節電に係わる啓発チラシを掲示、節電に心がけている。 ②-2 校内教室美化コンテストを実施し、教室環境を整えている。 ----- ③ 希少植物の保護活動を積極的に実施している。			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和元年度学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方法	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
6 魅力ある教育活動の推進	(全体レベル) (1) 地域との協働による高校教育改革事業を通じて学校全体の活性化を図る。 (2) 食の安心・安全の観点からのGAP教育を推進する。 (3) エシカルクラブを中心とし、地産地食のエシカル消費を推進する。 (4) 海外の高校生との交流をもつことにより、異文化理解を深め、グローバルな人財を育成する。 (下位組織レベル) ①地域活性化に向け、専門教育を生かした地域貢献活動 ②適切な農薬散布の実施や農場整備 ③林業後継者の育成を図る。	評価指標 ①-1 神山つなぐ公社との連携を積極的に行う。【年間で5回以上】 ①-2 神山サテライトオフィス(加盟企業)との連携を積極的に行う。【年間で5回以上】 ①-3 NPOグリーンバレーとの連携を積極的に行う。【年間で3回以上】 ①-4 町の森林ビジョンとの連携を積極的に行う。【年間で3回以上】 ①-5 小・中学校との連携を積極的に行う。【年間で3回以上】 ①-6 神山町役場との連携を積極的に行う。【年間で3回以上】 ② JGAPの認証を目指す。【本年度中に認証】 ③-1 エシカル消費について理解を深める。【年間で1回以上】 ③-2 エシカル消費について普及・啓発活動を行う。【年間で1回以上】 ④-1 国際交流の生徒派遣を推奨する。【全校生徒より2名以上】 ④-2 国際交流の受け入れプログラムの作成を行う。【プログラム数3個以上】	評価指標の達成度 ①-1 神山創造学、インターンシップなどで5回以上連携。 ①-2 3年生の課題研究等で3Dプリンタの指導で5回以上連携。 ①-3 神山創造学、課題研究、まちぐるみしごと体験、インターンシップで3回以上連携。 ①-4 神山中央森林組合と神山町産業観光課林業担当との連携で3回実施。 ①-5 1年神山創造学で職場体験の連携で3ヶ所実施。 ①-6 教育委員会、建設課、産業観光課と連携を実施。 ② 令和元年9月20日認証品目「かんきつ」スタチのJGAP認証。【目標達成】 ③-1 10月23日神山創造学でSDGs持続可能な消費について講演を実施。 ③-2 森林女子部が林業アカデミー祭で環境エシカルについて発表。エシカルクラブが神農祭で展示説明。 ④-1 本年度1年1名、2年2名、3年1名を8月16日から26日まで派遣。町内、校内で報告会を実施。 ④-2 10月26日オープンスクールで受入プログラムを実施。10月24日森林女子部と木工クラブで交流実施。	評定 総合評価 A (所見) ・地域との協働による高校教育改革事業を通じて、つなぐ公社・サテライトオフィス・グリーンバレーと協働して学校全体の活性化に繋がった。 ・食の安心・安全の観点からのGAP教育を推進するでは、今年度JGAPを取得したこと、神山スタチを東京オリンピックの選手村食材にエントリーできたことは、地域産業にとっても効果がある。また農場運営にとっても効果的な活動となっている。 ・エシカルクラブを中心とし、地産地食のエシカル消費を推進する目的で神農祭前々屋際としてゼロ円鍋を企画したことは生徒たちの自主性を伸ばした活動となった。 ・海外の高校生との交流をも、オランダ交流プロジェクトのチームを作り生徒が計画を立て実行したことは、グローバルな人財を育成するモデル事業となっている。 ・孫の手プロジェクトの活動では地域活性化に向けた専門教育で地域貢献活動が積極的に図られた。 ・農場の整備は、JGAP検査により基準の管理体制が図られた。 ・神山森林ビジョンと連携し林業後継者不足に歯止めを掛けていく取組が図られた。	○No. 4の「防災・環境教育の推進」でも話したとおり、評価指標の達成度において、目標とする回数を実施できた、できなかったという点で評価するのではなく、実施して生徒がどう変わったかということの評価するようお願いしたい。 ○神山の創造の森での森づくりにおいて、桜の造木をしたいと考えている。どんぐりプロジェクトで活動している神山校の生徒には是非お願いしたい。	・文科事業では、これまで実施してきた地域連携活動の継続で、魅力的な教育活動を神山創造学を中心として取り組めた。今後この創造学を全ての教職員が係わり、神山町を巻き込んでいく必要がある。そのためには、地域との連携を、全職員が係わり、地元神山町に名前を覚えてもらう交流が大事である。また教科の打合せや、事前研修や事後の「ふりかえり」を積極的に行っていく。 ○生徒たちには、県下の高校でJGAP取得を認証している学校は二校しかないことを誇りにして自信を持って取り組めるよう指導していきたい。 ○孫の手プロジェクトは、全校生徒の40%が参加し、特に1年生の興味が高かったことは、先輩たちが継続してやってきた成果と言える。この活動をもっと、地域の方に宣伝していく広報活動の改善と戦略が今後の課題である。次年度は、つなぐ公社との協議を早めに行い改善策を検討していきたい。
		活動計画 ①-1 孫の手プロジェクトにおいて依頼者満足度を向上させる。フードプロジェクトでは生産純利益を1万円以上とする。 ①-2 集合住宅プロジェクト外での苗木生産率を80%以上まで上げる。 ①-4 町の産業振興課との連携で林業技術の習得を目指す。 ①-5 石積みプロジェクトにおいて石積み学校を1回以上実施する。 ①-6 産学連携ものづくり事業において3カ所以上の連携・3品以上開発を目指す。 ①-7 各事業並びにプロジェクトの報告会を1回以上実施する。 ② 農場の整備や農薬管理の徹底、スタチの栽培技術など改善していく。 ③-1 林業担い手育成事業の充実により関連産業への就職者を1名以上設ける。 ③-2 森林環境促進事業の年間事業計画を実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 孫の手プロジェクトは夏期休業中に7件、生徒25名が参加し好評だった。 ①-2 フードプロジェクトでは2年生で加工品を作成中。(チヂミ) ①-3 集合住宅プロジェクトは1学期3年生、2学期2年生が実施し順調に生育している。 ①-4 10月18日に3年が伐木体験を実施、11月には2年造園土木科が伐木講習を予定。 ①-5 2年の神山創造学で石積みプロジェクトを継続中、今後、1年生も計画を予定。 ①-6 もうかるブランド課と連携を図り、スタチを使ったレシピ料理を発表した。 ①-7 1学期にはつなぐ公社に、2学期始めに大正大学生に報告会を実施。 ② 令和2年8月のJGAP継続審査に向け農場管理を継続している。 ③-1 3年生は希望がないが、2年生で2名、林業アカデミーを希望している。 ③-2 10月に徳島大学理工学部教授鎌田氏を講師として環境についての講演会を実施。			
		備考 評価における「評定」の基準】A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成				